

# 桔梗ヶ原女子拓務訓練所

～塩尻市にあった「大陸の花嫁」の学校～

1940年桔梗ヶ原拓務訓練所が全国に先駆けて開設しました。

地元（塩尻市）では「花嫁学校」とよばれていました。満蒙開拓団青少年義勇軍の若者のもとに嫁ぐ花嫁を養成するために建設されました。ここに入所する女性は「大陸の花嫁」や「興亜乙女」と称えられた入所者は15、6歳から20歳ぐらいまでの女性で、第一期入所者は、短期生、長期生をあわせて28名ほどです。長期生は自分の意志で入所するものが多かったが、短期生は役場などから勧誘、割りあてによるものがほとんどでした。

当時の「信濃毎日新聞」は桔梗ヶ原女子拓務訓練所についてこう報じています。

「興亜乙女の道場ここに完成」として「満蒙開拓青少年義勇軍」のよき伴侶として又は新時代建設の推進力として活躍戦とする興亜の乙女を集めて訓練すべき桔梗ヶ原女子拓務訓練所を急いでいたが、講堂及び寮舎九棟に日輪兵舎三棟その他の建物もここに全く完成……ここに全国の嚆矢としてその誕生を見る。「男は内原」「女は桔梗ヶ原」との時代の合言葉のもとに大陸政策に向かって驀進をすることになった。」と報じています。

つい最近(平成24年頃)まで、訓練所の建物が残っていましたが、それも取り壊されて当時の事を知る事や目にする事はできなくなりました。

この学習を通して、自分の住んでいる地域が約70年前の時代と関係があり、実際に行っていた人々は大変でつらい訓練に耐えていたということを考えたとき、今の時代がどれだけ安心して不安もなく生活できているかを考えて生活していくことが大切だと改めて感じました。そしてこの地で起きていた出来事を次の世代に伝えていきたいと思います。



参考資料：公民館報広丘 ふるさと探訪